

平成24年度秋田県政策等の評価に係る外部評価報告書の概要

評価対象	政策：協働社会構築戦略 施策：県民の多様な活動への参加促進と協働の推進 方向性② 「県民協働のための基盤づくりの推進」
評価対象の概要	○方向性 もっとよく知り、しっかり支えよう！ 協働の必要性について県民の理解を深めていくとともに、NPOや企業、大学など多様な主体による協働の取組を促進するため、活動内容の周知や人材の育成、資金の援助、活動拠点等の基盤整備を図ります。 ○目指す成果 「協働」に関する県民の理解が進むとともに、「協働」による具体的なアクションを起こそうとしている県民等を側面からサポートする仕組みが充実しています。
評価団体	特定非営利活動法人 あきた市民政策支援ネットワーク

評価の方向性 (テーマ・ねらい など)	○「ふるさと秋田元気創造プラン」がスタートして3年目を迎えたが、依然として少子高齢化の進行、県民人口の減少、地域医療対策、若年者の確保など、行政だけでは解決が困難な喫緊の課題が山積している。このような時期に、「県民協働のための基盤づくりの推進」について外部評価することは、課題解決に向けて求められる今後の秋田県社会構築のあり方や県政への県民参加、県民協働のあり方について考えることができるだけでなく、県民に対して協働についての理解を深めてもらうためにも有効であると考えた。 ○本評価では、「県民協働のための基盤づくりの推進」の中の主な取組が、どこまで達成されているのか、取組が未達成の場合はその要因は何かを探るといった進捗状況の点検をする観点から、ヒアリングやアンケートを実施し、現状と課題を洗い出すとともに各評価結果を分析し、「県民協働のための基盤づくりの推進」が現在の秋田県の課題を踏まえた取組となっているか等について点検・評価を実施した。
評価の手法	①県の担当部署へのヒアリング（1課） 企画振興部・地域活力創造課の担当者からヒアリング ○主なヒアリング内容 ・協働に関する県民理解の促進について ・活動情報のプラットフォームづくり等への支援について ・多くの人が集える活動拠点づくりの促進について ・スギッチファンドへの支援について ・リーダー人材等の育成について ・県外の人たちとの協働の仕組みづくりについて ②県民アンケート（105人） 県北・中央、県南のイベント会場において、イベント参加者を対象に、アンケートを実施 ○イベント会場 県北：第135回秋田県種苗交換会会場、中央：第33回秋田県花の祭典 県南：みさぼーとまつり ○主なアンケート内容 ・県の協働への取組の認知について ③取組団体等へのヒアリング（1団体、1関係者） ○ヒアリング①：NPO法人あきたスギッチファンド 内容：事業内容と実績、法人の役割と必要性、課題と今後の活動など ○ヒアリング②：秋田県協働推進専門員（S氏） 内容：役割と必要性、課題と今後の活動など ④ワークショップ 法人の関係者で、アンケート及びヒアリングの結果について分析（まとめ） ○分析内容 ・各取組毎に、必要性や有効性などについて実施
評価方式	○次の事項について着目し、ヒアリングやアンケート調査の結果を分析するワークショップにより評価を実施。 ①必要性、 ②有効性、 ③効率性

評価結果の概要

取組①「協働に関する県民理解の促進」  
○協働の促進を理解するために、秋田県が行った「県民協働行動指針」の策定や「協働の実践モデル集」の作成は効果が大きいと思われる。  
○今後は、まだ協働を知らない層や、指針やモデル集では周知できなかった層へのアプローチをどうするかが課題。  
評価：概ね評価できる

取組②「活動情報のプラットフォームづくり等への支援」  
○活動している人々にとっては、「秋田県市民活動情報ネット」は一定の効果を上げている。また、新しく立ち上がった「秋田の魅力データベース」にも期待。  
○インターネットを利用しない高齢者や、秋田県市民活動情報ネットの存在を知らない層が活用できるような工夫を求めたい。  
評価：概ね評価できる

取組③「多くの人が集える活動拠点づくりの促進」  
○集える活動拠点は必要で、アンケートからも場所を求める声がある。  
○活動拠点づくりに特化した支援事業であることがわかりにくかった。  
○採択事業の中に、活動拠点の特別枠を設けるなど強調してもよかったのではないかな。  
評価：もう少し工夫が必要

取組④「スギッチファンドへの支援」  
○地域課題を解決するためファンドを活用したい団体があることから、スギッチファンドへの支援は必要。  
○今回のアンケートの中では、一番認知度が高く存在を知られており、「活用した」又は「寄附した」という意見も多く見られた。  
○県民ファンドとして、NPOと協働した代表的な取組として、今後も活用が期待される。  
評価：概ね評価できる

取組⑤「リーダー人材等の育成」  
○始めようとする人への支援のため、今までの研修の修了生達がこれからの現場で活躍される事が期待できる。  
○協働推進専門員が設置されたことで、協働についての対応が常時可能となった。  
評価：概ね評価できる

取組⑥「県外の人達との協働の仕組みづくり」  
○県外の人達との協働は必要。  
○県内では取組が見えにくい。県外との協働の先進事例や好事例があれば例示してもらいたい。  
評価：もう少し工夫が必要

総合評価  
以上、6つの取組を総合的に判断し、「概ね評価できる」と評価した。

提言の概要  
(改善の方向性)

取組①【協働に関する県民理解の促進】  
協働に取り組んでいない人や関心の無い人に対して、協働への関心を高め取り込んでいくことが必要である。

取組②【活動情報のプラットフォームづくり等への支援】  
高齢者にとってはインターネットの活用が不得手な人達も多く、従来どおり、人や紙媒体を通じた情報提供も併用した形での「活動情報のプラットフォームづくり」が望ましい。

取組③【多くの人が集える活動拠点づくりの促進】  
活動拠点の立ち上げ支援ばかりではなく、継続におけるフォローの態勢が必要である。

取組④【スギッチファンドへの支援】  
初の県民ファンドとして、安定した軌道に乗るまでは引き続き支援が必要である。

取組⑤【リーダー人材等の育成】  
研修への参加者が少ない。参加者のニーズを的確に把握しているのか、研修終了後に参加者へのアンケートを実施して、講師・日時・会場設定、研修内容などの検討が必要である。

取組⑥【県外の人達との協働の仕組みづくり】  
県内では取組内容が見えにくい。アンケート結果からも県民は様々なアイデアを持っており、県民の視点を上手に活用するとともに、県庁内の横の連携も必要である。

その他  
協働社会構築は、プランの全ての戦略を実現させるために基盤となる取組であり、長期的な視点に立って取組を続けるべきであり、県民と共に歩む秋田県であってほしい。

<p>評価結果及び提言への対応方針</p>	<p>取組①「協働に関する県民理解の促進」  ○あきた県民協働フェスタを開催し、一般県民の参加促進を図るとともに、市民活動情報ネットの改修により、情報の受発信機能や視認性を改善し、協働への関心等が高まるように努めます。</p> <p>取組②「活動情報のプラットフォームづくり等への支援」  ○平成23年度に立ち上がった「秋田の魅力データベース」については、本年度まで業務委託によりウェブデザインの更新やコンテンツ追加を行ってきました。来年度以降は、職員の直営を基本に、人づくりに主眼を置いたコンテンツの充実に努めます。また、各NPO支援センターが発行する情報誌については、県又は事業受託NPO法人予算により、紙媒体での発行の継続に努めます。</p> <p>取組③「多くの人が集える活動拠点づくりの促進」  ○集える活動拠点については、公民館等の行政施設や全県3箇所の市民活動センターなど、既存の公的施設を補完するものとして、民間ベースの小規模コミュニティスペースをきめ細かに創出していくことが重要です。集いの場づくりのために「秋田型コミュニティビジネス起業支援」を活用できることから、募集要領の記載に当たり、よりわかりやすく特化した募集内容となるよう検討します。</p> <p>取組④「スギッチファンドへの支援」  平成25年度も補助金300万円を引き続き支給するほか、寄附金収入やPRのための活動を委託事業により実施するとともに、地域活力創造課及び地域振興局に協働活動支援員を配置し、全県域で展開します。</p> <p>取組⑤「リーダー人材等の育成」  協働セミナー等を開催する際に、趣旨や想定する受講対象者等の事前周知に努めます。講師は、協働推進専門員への依頼を検討します。</p> <p>取組⑥「県外の人達との協働の仕組みづくり」  ○包括協定や移住推進などの事業において、県外企業や任意団体と協働しているため、それらの県外協働事例等について例示に努めます。</p>
-----------------------	--